
日程第1. 市政一般質問

○議長（初村 久藏君） 日程第1、市政一般質問を行います。

本日の登壇者は3人を予定しております。それでは、届出順に発言を許します。9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） おはようございます。9番議員、会派自公・協働の脇本啓喜です。今回は、対馬市観光振興推進計画の内容の総点検と銘打って質問いたします。

当該計画は、このQRコードから検索できますので、詳細をお知りになりたい方は御利用くださいませ。

大きな1番、対馬市観光振興推進計画に掲げるビジョンの確認について。

（1）本編11ページには、上位関連計画である「対馬市観光再生ビジョン～韓国インバウンド一辺倒からの脱却～」(2020年1月)の概要が掲載されています。また、概要版では、「韓国人観光客」という単語が全く出ていません。

国内誘客に力を入れるというのは理解できますが、韓国人観光客が来た時の対応が記載されていないようです。国が外国人観光客入国緩和を進めている中、韓国人観光客への対応をどう考えていますか。また、韓国人観光客誘客に対する市民の意見の趨勢をどう捉えているか、答弁を求めます。

（2）33ページに、対馬観光のコンセプトとして「日本の始まりに出会う、源（みなもと）の島。」と掲げられています。なぜ、このようなコンセプトにしたのか、答弁を求めます。

また、「日本のルーツ」という表現を35ページと40ページに使用されていますが、対馬が日本のルーツと発信する根拠は何なのか、これが示す意味は何か、答弁を求めます。

大きな2番、当該計画が対馬市全体の取組に特化していることについて。

（1）対馬市の面積は広大で、島の津々浦々で歴史や風土あるいは文化も異なり、地域別に戦略を変える必要があると思います。地域別戦略についてどのように考えているか、答弁を求めます。

（2）現在、最上位計画とされている第2次対馬市総合計画後期計画では、観光に関連する計画として、「北の玄関口」地区まちづくり協働プラン、中対馬未来づくりアクションプラン、厳原南部地域アクションプランが掲載されています。また、地域マネージャーが各担当地域をサポートしてつくり上げられた地域づくり計画も存在します。これらの計画との整合性が取れているのかについて、答弁を求めます。

大きな3番、PDCAサイクル（計画→実行→評価・分析→改善）の実効ある展開について。

（1）計画では、46ページに「事業進捗状況報告会の開催を検討する」と記載されているが、

実施しないこともあるとの意味なのか、答弁を求めます。

(2) 市長が当該計画の「はじめに」でも述べていますし、45ページでも「対馬市観光振興の推進体制については、対馬市の観光を支える事業者・市民を中心に据え（中略）一体的な支援を行う体制づくりを進めます。」と記載されています。「市民を中心に据える」とは、具体的にはどのようなことを実施するのか、答弁を求めます。

以上、答弁によっては、自席から再質問をさせていただきます。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） おはようございます。脇本議員の質問にお答えいたします。

対馬市観光振興推進計画は、令和3年6月にプロポーザルによる公募を行い、令和3年8月から計画策定に着手しております。

計画の策定では、島内観光関連事業者、旅行社、観光モニターへのヒアリングを実施し、最終的に事業者への計画素案による説明会及び市民に対し、パブリックコメントを行いました。

本計画における韓国人観光客の対応については、まず、令和元年の日韓関係の悪化により韓国人観光客が激減し、国政に左右されない強い観光の在り方が浮き彫りとなりました。

従来はモノの消費による観光が中心でありましたけども、対馬の歴史や文化、豊かな自然、体験などを楽しむコトの消費サービスへと展開し、国内外を問わず、様々な層の観光客に対馬を選んでもらう必要があります。

韓国人観光客への対応についても、アウトドアや歴史、体験など関心が強い客層へコトの消費に向けたPRを行い、誘客を促進する一方、従来からの釜山事務所を活用したPR及び誘客も展開してまいります。

日韓関係の悪化、新型コロナウイルスの影響により、令和2年4月以降、韓国人観光客が途絶え、市内の観光産業事業者は大打撃を受けていることと承知しております。市内経済回復に向けてはインバウンドの獲得は必要であり、国においても、商用・就労等の目的の短期滞在、観光目的の短期滞在等、入国制限が令和4年6月10日から1日2万人に引き上げられたところでございます。

市では、韓国総領事館との意見交換では、今後は韓国側の航路事業者も再開に向けた動きがあると同っております。ただ、今すぐ対馬に韓国人観光客が訪れることは、現段階での水際対策緩和状況では厳しい状況ではありますが、市でも市内経済回復に向けた起爆剤として動向を注視し、対策に取り組んでまいります。

対馬観光振興推進計画のコンセプトとして、「日本の始まりに会う、源（みなもと）の島。」として位置づけを行った経緯でございますけども、令和4年2月4日に島内の観光事業者を対象に観光振興推進計画素案の報告会をウェブで開催いたしました。コンセプトについては、

事業者からの指摘があり、3つの案に絞られ、最終的には事業者のアンケートにより決定されました。

また、その意味は、振興推進計画にも記載しておりますとおり、対馬は、「魏志倭人伝以降、古来から時空を超えて受け継がれてきた日本の精神がありのまま宿る自然景観や独自の生態系、歴史や食資源」であること、「砦の地としての凜とした佇まいや誇り、対馬特有のオリジナリティ」が「日本の源流、根源、原動力」として捉えられております。「日本のルーツ」と発信する根拠ではありますが、観光関連事業者のヒアリングでも、対馬は日本のルーツがたくさん詰まっている島と意見をいただいております。

対馬は日本独自の信仰などが息づき、その一方で、仏教や漢字などの大陸文化の中継地でもあったなど、対馬は日本の始まりの原点でもあることから、このような表現としております。

この計画が対馬市全体の取組に特化していることについて、地域別に観光戦略を変える必要もあるとの御指摘でございますけども、この計画は対馬全体を大きな枠として捉え設定をしております。

地域別の観光戦略については、「北の玄関口」地区まちづくり協働プランや中対馬未来づくりアクションプラン、厳原南部地域アクションプランにおいて、市民皆様の意見により戦略を練り上げればと考えております。例えば、対馬に旅行費用と時間をかけてまで行きたくなるような歴史、自然、食などの観光の強みが各地域にあります。この観光資源を地域別に磨き上げ、面と面をつなぎ合わせたコンテンツを売り込み、とがった観光へと展開していければと考えております。

本計画では第2次対馬市総合計画の後期計画を上位計画と定め、総合計画のなりわいづくりの持続可能な観光業の推進を基本とし、本計画でもコアなファンづくりによる持続可能な観光へと展開を進めてまいります。

上位計画である第2次対馬市総合計画では、「北の玄関口」地区まちづくり協働プラン、中対馬未来づくりアクションプラン、厳原南部地域アクションプランが関連計画として位置づけられており、先ほど説明いたしました地域別の観光戦略にもこのプランと関連がございます。本計画でも、上位計画に沿って、関連する各種プランとも連携を行い、事業の展開を図ってまいります。

事業進捗状況報告会の開催を検討するとの記載があるが、実施しないこともあるのかとの意味につきましては、本計画が計画に沿って事業が実施されているのか、また効果が得られているのか、年2回程度の開催を検討としており、最低1回は開催を行うこととしております。しかし、PDCAサイクルによる検証を行う上では、年2回程度を目安に開催を行うこととしております。

しっかりと市民への説明と理解が進められていると理解してよいのかにつきましては、策定に当たりましては、島内観光関連事業43事業者から、外部事業者及び専門家8者、島外の観光モ

ニター11名に対しヒアリングを実施しております。また、令和4年2月4日には、事業者の皆様への素案計画の説明会、令和4年2月14日から令和4年3月6日にはパブリックコメントを実施し、市民への説明については一定の理解があったものと考えております。

市民を中心に据えるとは具体的にどのようなことを実施するのかにつきましては、例えば観光体験コンテンツの造成、新たな観光商品開発及び販売、観光ツアーの造成などを意欲的に行う事業者に対し、専門家のアドバイスや財政支援を行い、市民が中心となった観光振興策に対して、行政が支える仕組みを展開してまいります。

また、地域の事業者が勉強会を行ったり、経営のフォローアップ、事業継承など、内容に応じたサポートも考えており、市民が主体の観光振興事業の展開を見据えております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） まず、ビジョンの確認についてなんですが、まれに「もう韓国人は来んでいいばい」とおっしゃる市民がいらっしゃるのも承知しておりますが、少なくとも、私が今回の一般質問に当たり、全島及び本土の有識者を合わせて約50名のヒアリングの中、約30名の御返事をいただいておりますが、その方々の中には韓国人観光客の早期受入れに賛成の意見ばかりでした。特に、上対馬地域の方からは、出入国のほとんどは比田勝港なのに、無料PCR検査場も、新型コロナ陽性判明者隔離施設も、なぜ厳原のみなのかとの疑問の声も上がっています。

また、対馬観光のあり方検討会でも、以下のような御意見があったと記載されています。国内客誘客は長い間やってもできなかった。すぐ近くに釜山350万人の都市がある。一刻も早く韓国人観光客を取り戻す必要があると、これは、記載されてるのは御存じだと思います。

ところで、韓国人誘客に関する意見の趨勢をどう捉えていらっしゃるかという質問をしたつもりなんですが、市民はどういうふうにこの韓国人観光客の早期、特に再開について、どのように考えてらっしゃると思ってるか、もう一度答弁お願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 今のちょっと、市民はですか、市長はですか。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 市民です。市民がどう捉えてるか、市長はどう思ってるか。

○市長（比田勝 尚喜君） 市民ですね。

議員も御存じのように、市民の皆様は、このお隣の韓国からの観光客を待ち望んでいるというふうに私自身も感じております。

しかしながら、これまでも数度ございましたように、国と国との対立の関係から、政治に左右されて観光客が突然と対馬を訪れることが激減したというような経験もしているところでござい

ます。

このようなことから、やはり、もしそういったことになった場合——韓国のほうも大統領も替わりましたので、今後、そういうことはおそらく起こることはないものというふうには考えてはおりますけれども、ただただ国と国との関係でございますので、そこがもしそのようなことになった場合、また再度、対馬の観光産業、そして商業者の皆様、途方に暮れるということになるかと思えます。そういう関係から、やはり韓国人観光客の誘致はこれまでも力を入れていながら、国内からの誘客のほうにも力を入れていくというようなコンセプトで、市といたしましても県や国、そしてまた他の観光事業者の皆様と力を合わせながら、対馬の観光産業の発展に向けて努力をしているところでございます。

そういうことで、市民の趨勢といいますけども、市民はおそらく韓国人観光客はもとより、国内の観光客の誘客を待ち望んでいるということでございます。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 安心しました。確かに市長のおっしゃるとおり、国の情勢や、今、コロナというような、国同士の戦いではなくて、そういうパンデミックみたいなことが起こったら、インバウンドばかりに頼ってはいけないということもよく理解できます。国内誘客、今まで進んでなかったことも力を入れる、その中で韓国人誘客にもちゃんと力を入れるんだという答弁がありましたので、市民の、特に北部のほうはそこに頼り切っていたところがある、まさにそうだと思うんです。ただ、頼らざるを得なかった状況があったわけです。これからは国内誘客も両方取り組んでいくということで、しかも、きちっと韓国のほうも目を向けるということで、ありがたい答弁であったと思います。

ところで、日本から韓国、韓国から日本へ入国する際、今現在、各国——日本と韓国だけでも結構です——どのような手続が必要なのか、お知りであったら教えてください。

○議長（初村 久藏君） 観光交流商工部長、村井英哉君。

○観光交流商工部長（村井 英哉君） 詳細まではちょっと御説明できないところもございますけれども、お答えいたします。

水際対策強化に係る新たな措置ということで、今、29号でしょうか、出ておりますけれども、御存じのように、6月の10日より少しずつ水際の対策のほうも緩和をされておるということで、現時点では1日に2万人ということで受入れが可能となっております。

ただし、旅行者に関しては、受入責任者となる旅行会社、そういったところが受付の窓口となって、国内に入られたら、添乗員がつかれてパッケージツアーを行っていくと。国内に入られてからも、行動の一つ一つが添乗員から、そういう目線の中で同行しながら行動すると、個人の行動はできないというようなところまで、少しずつ緩和策がされておると。

あくまでもこれは空からの便ということで、海のほうについては、この先、国の緩和策等が進んでいくと同時に動きが出てくるのかなというふうに思っております。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 今、答弁があったように、今現在は空路のみの開放であって、船を使ったインバウンドはまだ始まっていない、開放されていないということ、それは重々存じ上げてます。

ただ、船を使った出入国の一番多かったのが対馬、比田勝です。まず、空路だけではなく、船を使ったインバウンドの再開についても強く国に要望されて、今現在、コロナの証明とかも、国内で通用するもの以上の48時間以内にしたもの、証明されたもの等、必要な状況になってます。そういうものの緩和についても、やはり、対馬の市民が望んでるのを分かってるんだというふうな答弁をいただいたのですから、しっかり国のほうに、航空路だけではなく、船のほうの開放も急いでくださいという要望をしっかりしていただくようお願いいたします。このことについてお願いしたいと思うんですが、いかがでしょう。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 先ほど、部長のほうからも説明いたしましたように、今現在は空路でございますけども、対馬観光につきましては、韓国総領事館のイ・ヒソプ総領事とお話をさせていただいたときにも、韓国の事業者のほうも対馬との航路の準備を進めているというようなことも聞いております。

そういう関係で、今、JR九州高速船のクイーンビートルのほうも準備をされているようですので、市といたしましても、関係者、そういったところと一緒に、国際航路の再開に向けても要望をしていきたいと思っております。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 今、韓国のほうの業者も望んでるという情報も入ってきてるということです。今、動き始めている韓国のほうの事業者、対馬に本当たくさんの観光客を送り込んでくれて感謝しております。この方々が、今、準備に取り組んでます。対馬市は、韓国人は来んでいいとばいと思ってないんだ、早く帰ってきてほしいと思ってますよというシグナルを、釜山事務所などを通じて、そういう会社のほうにも発信していただきたいと思います。安心してそれに取り組めるように支援してください。

それから次に、この計画策定の際にヒアリング等を行ったと。結構たくさんの方、行ってらっしゃると思います。この基となったデータ、いつ取られたのでしょうか。その中で、どの期間を対象として、この計画策定につなげるデータとされたのでしょうか。そのあたりをお聞かせくだ

さい。

○議長（初村 久藏君） 観光交流商工部長、村井英哉君。

○観光交流商工部長（村井 英哉君） お答えいたします。

観光振興推進計画そのものが、実は令和3年度から進めるはずであったんですけども、いろんな国際情勢によって、先ほど市長申しますように目標値がなかなか達成できなかつたり、コロナの関係があつたりということで、3年度をそういったことで、国内の、そして島内のそういう社会情勢がどうなのかということで、1年間をそこで検証する期間ということで設けて、43者、それから11者、8者というふうに聞き取りをさせていただいたこのデータは、令和3年度に行ったものであります。

それと……。よろしいでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 今、聞かせていただいたの、コロナ後のデータを基にした計画だということによろしいですね。

そうであれば、国のGoToトラベルや県のふるさとで“心呼吸”の旅、それから対馬市が行った新旧対馬藩札による誘客指針に大きく左右された結果であろうことは容易に想像できますよね。従来、本来の観光客が来てたときのデータじゃないデータを基にしてるということですよ、私が言いたいのは、大方のキャンペーン期間中、対象者を同一県内あるいは同一市町村在住者に限定されてきました。それを基礎データとしてこの計画を策定したのであれば、状況が大きく変わろうとしているのですから、計画の骨組みから早急に見直す必要があるのではないのでしょうか。答弁を求めます。

○議長（初村 久藏君） 観光交流商工部長、村井英哉君。

○観光交流商工部長（村井 英哉君） お答えいたします。

ヒアリングを行いました、御協力をいただきました各業者の方ですけども、基本的に、今回の5か年の計画をつくるに当たりまして、まず、対馬の地元の方々の感覚、それと実際の市場のニーズはどうかと、そういったことが原点にございまして、そこになるべく隔たりがないように、そういう観光実態を把握するために、こういう抽出した形でのお声をいただいております。各業者には、専門の本市の観光アドバイザーが帯同いただきまして、事細かにそういう状況等を聞きながら進めていくということで、この計画の根本をつくっておつもりでございます。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 今の答弁からすると、基礎データは令和3年度の実績を基にしているが、その先まで見据えた計画になっているということによろしいですか。はい。では、理解

できます。

ただ、ここにも書いてあるように、しっかりPDCAサイクルに乗せるんだ、進捗状況報告会も開催するんだと。今、検討するじゃなくて、年1回はするという発言があったと思うんです。しっかり、市民も巻き込んで、今のこの計画でいいのかどうか見直せる、そういう環境づくりにも取り組んでください。約束、よろしいですか。

○議長（初村 久藏君） 観光交流商工部長、村井英哉君。

○観光交流商工部長（村井 英哉君） 協本議員、我々が一番思っるところに視点を持っていたいておりまして、非常にありがたいところでもあるんですけども、本計画は毎年5年先の目標値を掲げるのではなくて、毎年、この事業進捗報告会、これを開催することによって、その年々の上地区、中地区、下地区それぞれの反省点でありますとか、これからどういうアイデアをもって、工夫をもってやっていくのかとか、そういう報告会でございますので、この計画というものは、毎年毎年、プラスアルファ生きた計画というふうなことで進めております。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 9番、協本啓喜君。

○議員（9番 協本 啓喜君） 力強い答弁いただきました。実践いただけるように、よろしくお願いたします。

それから、次の「日本の始まりに出会う、源（みなもと）の島。」、それから「日本のルーツ」というこのコンセプトについてなんですが、今、先ほど市長のほうから答弁がございましたように、日本の精神がありのまま残ると、それから日本のルーツがたくさん詰まっているという評価をいただいたと。確かにそういう側面もあるかもしれません。

ただ、対馬は日本の始まりじゃないと思うんです。日本のルーツではなくて、中国とか大陸の文化が一番最初に入ってきたのが日本であって、もともとの日本ではないはずなんです。純日本ではないでしょう。そこは、ちょっと私と見解が違うところかなというふうに思っています。

純日本を味わいたいのであれば、京都や奈良等を訪れられるんじゃないでしょうか。対馬市は、合併当初から、「アジアに発信する歴史海道都市」というのをコンセプトとしてきましたよね。この日本の源や日本のルーツというコンセプトが、整合性があるとはちょっと私は考えられません。従来の、先ほど市長がおっしゃられたような形で日本の源、ルーツというのであれば、少し違うんじゃないかなというふうに感じております。

私の感想と意見が違うのであれば、お聞かせください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） それぞれ、人間で見解の相違というものはあろうかと思えます。

今、議員おっしゃられるように、文化は、確かに中国のほうが、中国4000年の歴史ですか

ね。そういった形で古くて、中国のほうから朝鮮半島を経て、対馬を中継しながら日本に渡ってきたということでございまして、対馬はそういう意味でも大陸文化の中継点でもあったというようなことで、最初に日本に入ってきたのはここ対馬だというようなことで、対馬は日本の始まりの原点でもありますよというような捉え方をこの計画の中ではしていることとさせていただきます。

言われるように、これは個人個人でいろいろ捉え方があろうかと思っております。今回のこの計画をいろいろと検討してつくっていただきました特に観光事業者の皆様にとりましては、日本の始まりの原点と、そしてまた源の島ということは、かなりこだわったものになってあるというようなことは担当のほうからも聞いております。

以上であります。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 事業者もそういうふうには言ってるんだということとありますので、くどくは言いたくないところですが、市民基本条例の前文でも述べられています。対馬は、いにしへの時代から朝鮮半島と日本をつなぐ海の道、海道の中継地として大きな役割を果たしてきました。その影響を受けて、独特の歴史や文化、風習が今も残されています。

ここから先は私の意見です。

また、生物も、朝鮮半島や大陸系、日本固有系、そして対馬固有系が生息する多様性を誇ってるんです。日本だということと対馬を売り出していくものではなくて、今言ったような、多様性を含んでるということと売り出していかなきゃいけないと思ってるんです。このように、大陸、半島と日本本土、そして対馬独特の要素を包含していることが対馬の特徴、すなわち対馬らしさだと私は認識しています。

もう、このことについては水かけ論になるかもしれませんが、何かあれば答弁いただきますが、結構です。何かあれば、また答弁ください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） このことでいろいろと議論をしても、先ほど言われるように、水かけ論になろうかと思えます。あくまで、この観光振興推進計画の中では、大陸文化の中継地として、ここ対馬が日本の原点、そして源の島という捉え方をもってこの計画を組み立てているということと御理解をお願いしたいというふうに思えます。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 次に、第2次対馬市総合計画から、時間の関係上、「北の玄関口」地区まちづくり協働プランに絞って質問いたします。

このプランはいつ策定されたか、御存じですか。

○議長（初村 久藏君） 上対馬振興部長、阿比留裕君。

○上対馬振興部長（阿比留 裕君） 脇本議員の質問に答えさせていただきます。

このプランは、平成19年3月に策定されたものとなっております。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） そうですね。2007年ですよ。今年から15年も前です。韓国から、まだノービザで、やっと来れるようになって、韓国人観光客、まだ年間数万人に達した、その程度の時期です。この計画を、このプランと関連計画として今も使っているということに対して、どのように思われますか。

○議長（初村 久藏君） 上対馬振興部長、阿比留裕君。

○上対馬振興部長（阿比留 裕君） お答えいたします。

経緯でございますけども、先ほど言ったように、平成19年3月に協働プランを策定され、平成26年の2月に観光リゾートイメージ図、報告書の策定に至っております。

これまで、この第1、第2プランに基づき、それぞれの計画案から、事業等、実施をしている経緯であります。平成29年の3月から、この活動自体が休止状態と現在となっております。

ただ、当初の協働プランにつきましては現在も生きており、その活用については、事業実施のほうに向けて着々と進んでいる状況であります。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 今、答弁にありました、ここにも書いてあります。やはり、その計画、アップ・ツー・デートしていかなくちゃいけませんよね。その時々合った計画をつくるのが当然のことだと思います。

対馬市における地域包括ケアを検討する際にも、私、提案しました。対馬全体、共通のことについてばかり検討しても、地域によって医療・介護資源が大きく異なる対馬では各地のニーズに答えられません。まずは、各地のニーズに応えるために、地区別の協議をメインとして、そこから見えてくる共通項について、初めて対馬全体で協議すべきではないかというふうに私は訴えてきました。担当部署もコロナ禍で開催がままならなかったとはいえ、昨年度から集落ごとの実態把握に乗り出していただいています。すごく評価しています。同じように、観光分野においても、地域ごとの戦略をメインとする計画策定に変更すべきだと思います。

今議会初日に報告したとおり、上対馬病院の建て替えが公となりました。この新築移転先選定が近々対馬市に委託されます。また、立地適正化計画に準ずる地域として、比田勝周辺も指定されています。北部地域の総合的まちづくり協働プランを見直すよい契機だと思います。上対馬振興部に権限と財源を付与して、北部地域における市民協働の総合的まちづくり担当とすることはいかがでしょうか。市長、答弁をお願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 北部地域の振興プランについては、もちろん上対馬振興部が中心となって、進めるべきだというふうには思っておりますけれども。ただ、上対馬振興部のみで走られても対馬全体と私がいつも言うように横串を刺しながら、あくまでも連携をしながらの振興策を作り上げていかなければならないということ。中心には据えたいというふうには思っております。そういうことでよろしいでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） まだそのようなことをやる、検討するということがよろしいですか。まちづくりについて、全てを任せるわけではないが、中心となってやってもらう方向でいきたいという答弁でよろしいですか。よろしいですね。頷いていらっしゃいますので。じゃあそこはここで終わりたいと思います。

それから、大きな3番目のPDCAサイクルについてなんですが、先ほど進捗状況報告会を年に一度は最低行うという答弁をいただきましたので、この辺りは少し割愛します。

このPDCAサイクルの中で、今までやらなきゃいけなかったことが少し足りなかったんじゃないかなと思っているところを今から述べます。

韓国人観光客が年間41万人を超えていたころは受け入れ態勢が追い付いていない観光公害、いわゆるオーバーツーリズムの状況であったことは衆目の一致するところであると思います。その後、日韓関係の悪化とそれに追い打ちをかけたコロナ禍の影響で市内観光業は大打撃を受けています。しかし、視点を変えたら観光公害対策を検討する年月を3年弱もの間与えられたともいえます。この間、対馬市は何か観光公害対策を準備なさってきたのでしょうか。答弁をお願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 観光交流商工部長、村井英哉君。

○観光交流商工部長（村井 英哉君） 今おっしゃいますのは……

○議員（9番 脇本 啓喜君） オーバーツーリズムに対する対策。

○観光交流商工部長（村井 英哉君） 承知しました。そういったことで令和元年までは韓国から41万人ということで、36万人、41万人お出でいただきまして、そういった中には経済効果も多くありながら、そして島内でもある意味、環境に対して食べたもののかすが捨てられたりとかいろいろなこともあったり、そういうことはあったかと思っておりますけれども、そういうオーバーツーリズムという表現が適切かどうか分かりませんが、薄利多売であったりとかそういったことも含めて。

それを検討するために、今回しま旅などを使って、国内のお客様が少なかったわけですから、そこを例えば平成30年度でありますと1,900人ぐらいしか国内のお客様、このしま旅を使

っておられませんでした。それを、そういうことではいけないということで、県などの力を借りまして、元年度にいきますと1万人、そして令和2年度でいきますと1万8,000人と、五島や壱岐を上回るように我々としては国内のお客様を迎え入れることができましたので。そういったことも含めて、これまでの来ていただくことはありがたいんですけど、その1つの宿のキャパシティ等も含めて調整をしていくと。バランスよくやっていくということで、私たちは今そういう方向で進めておるといふつもりであります。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 今、国内の観光客の誘致が進んでいるんだという数字を上げての答弁だったと思います。私は、確かに数字はその数字だと思うんですが、対馬藩札、あれは対馬の市民も対象としていましたが、ほかの地域はそれぞれの住んでいる地域の人たちはその恩恵を受けていませんよね。そうですね。だから、そういうところで、その数字を同列に扱うのはどうかというふうに思います。

それから、観光も大事なんですけど、先ほどから市民を中心に据えると言いながら計画のほうの図にも書いてあるんですが、市民とは観光事業者だというふうに捉えていらっしゃるようです。そうではなくて、この前観光DMOの話も出ました。観光DMOには観光関係の人だけではないんです。市民も入って、対馬の観光、その地域の観光をどうしようかということを考えていくのが観光DMOです。その点からいくと、観光も大事なんですけど、それ以上に現在対馬に住んでいる市民の安心安全な生活の確保のほうがもっと重要です。そのためには、野放図な観光産業の拡大による観光公害の発生を未然に防止するための実効ある規制をあらかじめ規定し、それを遵守してもらう仕組みが必要です。今回、杜撰な安全管理で起こるべくして起こったような北海道の遊覧船のような、ああいう事故が起こってはいけません。6月6日に川口さんが長崎新聞時評で書いてありました。御覧になっているようです。しっかりそこも理解して、安全もしっかり配慮しているところなんだと、対馬ということをPRしていただくようお願いして終わります。

以上です。

○議長（初村 久藏君） これで、脇本啓喜君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 暫時休憩します。再開は11時10分からとします。

午前10時53分休憩

午前11時10分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。引き続き市政一般質問を行います。